

JMS NOTES



「人と医療のあいだに・・・」

第52期 事業のご報告

2016年(平成28年)4月1日～2017年(平成29年)3月31日

JMS
証券コード 7702

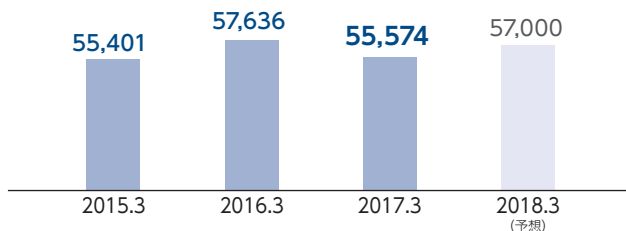
連結財務ハイライト

売上高

555億74百万円

(百万円)

■ 通期 ■ 予想



経常利益

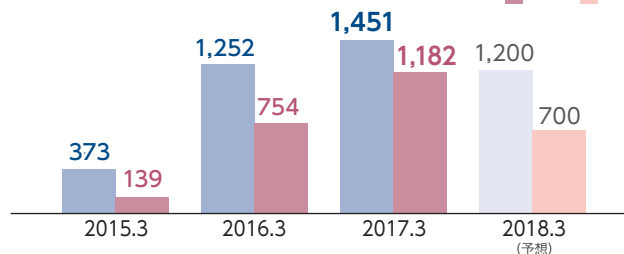
親会社株主に帰属する当期純利益

14億51百万円

11億82百万円

(百万円)

■ 経常利益 ■ 親会社株主に帰属する当期純利益
■ 通期 ■ 予想

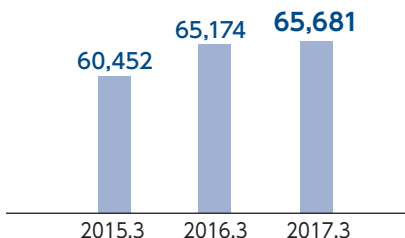


総資産

656億81百万円

(百万円)

■ 通期

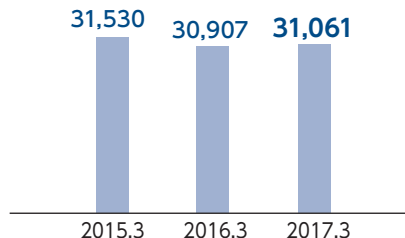


純資産

310億61百万円

(百万円)

■ 通期

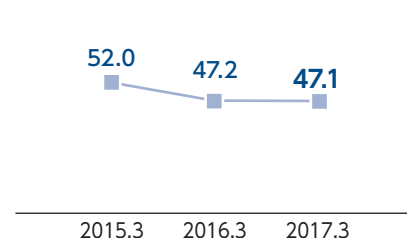


自己資本比率

47.1%

(%)

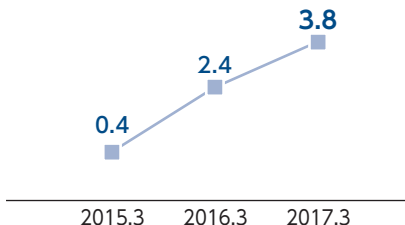
■ 通期



自己資本当期純利益率(ROE) 3.8%

(%)

■ 通期

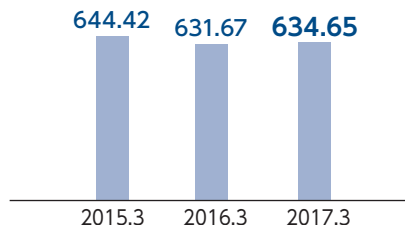


1株当たり純資産

634円65銭

(円)

■ 通期

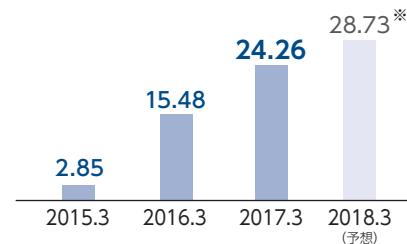


1株当たり当期純利益

24円26銭

(円)

■ 通期 ■ 予想



【見通しに関する注意事項】

上記予想は、現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があることをご承知おきください。

※2018年3月期の1株当たり当期純利益につきましては、株式併合(2株→1株)の影響を考慮しております。(株主メモ参照)

ごあいさつ

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

ここに、当社第52期(2016年4月1日から2017年3月31日まで)のJMS NOTESをお届けいたしますので、ご高覧いただきますようお願い申し上げます。

当社グループの業績は、国内においては、経腸栄養システム製品の販売および白血球除去フィルター付血液バッグの販売が増加しました。海外においては、成分献血用回路の販売が増加したものの、円高により海外売上高の円貨換算額が減少しました。

この結果、連結売上高は、前連結会計年度に比べ20億61百万円減少の555億74百万円(前連結会計年度比3.6%減)となりました。

利益につきましては、大型投資にかかる償却負担や開発費の増加等により、営業利益は11億6百万円(同22.2%減)となりました。一方で、持分法による投資利益の計上や為替差損が減少したこと等により、経常利益は14億51百万円(同15.9%増)となり、親会社株主に帰属する当期純利益は11億82百万円(同56.7%増)となりました。

期末配当金につきましては、利益配分に関する基本方針に基づき、1株につき4円とさせていただきます。これにより年間配当金は中間配当金(1株につき4円)と合わせまして、1株につき8円となります。

さて当社は、医療機器業界における市場環境の変化や競争激化に対応してゆくために、新たにビジネスユニット型組織を設置し、研究開発部門及び営業部門を再編いたしました。この機構改革により、ビジネス単位ごとに顧客を起点とした最適な戦略を迅速に展開し、事業の成長を追求してまいります(P.09 TOPICS参照)。

代表取締役社長
奥窪 宏章

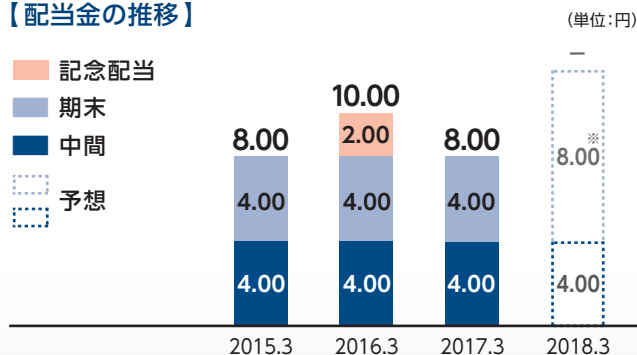


これからも創業精神「かけがえない生命のために」のもと、医療現場の声に耳を傾け、そのニーズに沿った製品の開発、提供を通じて「人と医療のあいだの架け橋」となって世界の医療に貢献してまいります。

株主の皆様には、今後とも格別のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2017年6月

【配当金の推移】



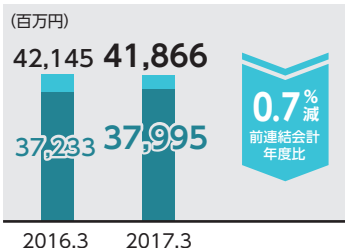
※2017年10月1日に普通株式2株を1株に株式併合した場合の配当金額です。年間配当金合計は、株式併合の影響を考慮し「―」を記載しております。株式併合を考慮しない場合の2018年3月期(予想)の1株当たり期末配当金は4円、1株当たり年間配当金は8円となります。

【所在地別】

日本

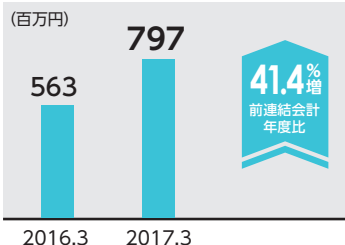
売上高 **418億66百万円**

(外部顧客への売上高 379億95百万円)



経腸栄養システム製品の販売が増加したものの、検診用手袋の販売が減少しました。

セグメント利益 **7億97百万円**

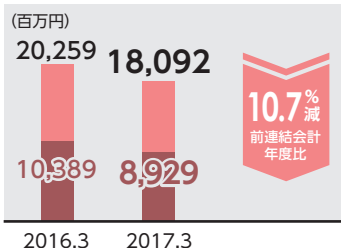


償却負担の増加等があるものの、収益率の上昇により利益が増加しました。

東南アジア

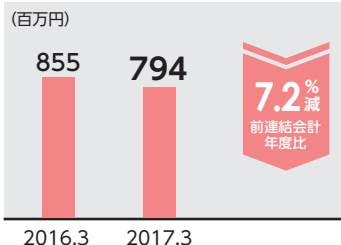
売上高 **180億92百万円**

(外部顧客への売上高 89億29百万円)



欧州向けの成分献血用回路の販売が増加したものの、AVF針の販売が減少しました。

セグメント利益 **7億94百万円**

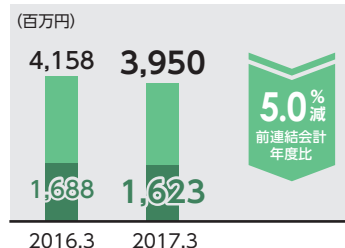


為替による外貨建て仕入取引にかかる原価の増加により利益が減少しました。

中国

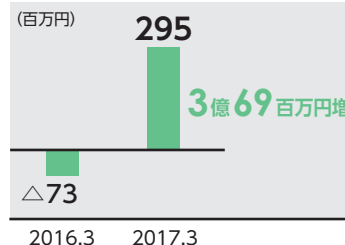
売上高 **39億50百万円**

(外部顧客への売上高 16億23百万円)



日本向け輸液セットの販売が増加したものの、円高により円貨換算額は減少しました。

セグメント利益 **2億95百万円**

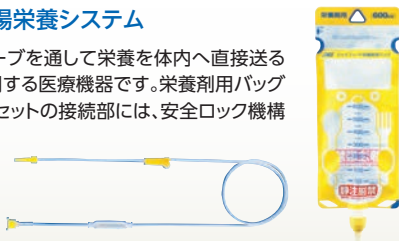


現地通貨ベースの増収効果等により黒字となりました。

(注) セグメント利益は、経常利益ベースの数値であります。

ジェイフィード経腸栄養システム

経腸栄養療法(チューブを通して栄養を体内へ直接送る療法)を行う際に使用する医療機器です。栄養剤用/バッグや栄養ボトルと栄養セットの接続部には、安全ロック機構を採用することで、離脱防止による安全対策を提案しています。



医療用手袋 (手術用・検査・検診用)

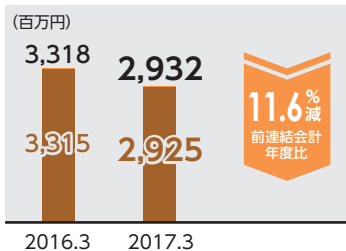
手術や検査などを行う際に使用される手袋です。天然ゴム製のほか、ラテックスアレルギーを持つ方々のために合成ゴム製も取り揃えています。



ドイツ

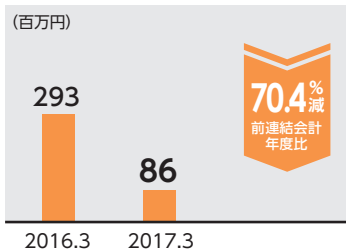
売上高 **29億32百万円**

(外部顧客への売上高 29億25百万円)



オーストラリア向けの透析チェアの販売が減少しました。

セグメント利益 **86百万円**

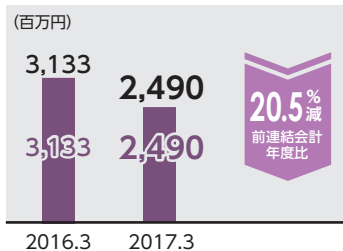


為替による外貨建て仕入取引にかかる原価の増加により利益が減少しました。

アメリカ

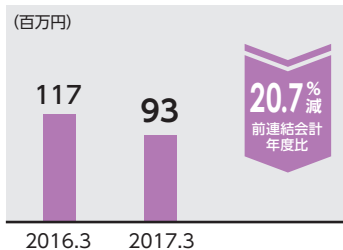
売上高 **24億90百万円**

(外部顧客への売上高 24億90百万円)



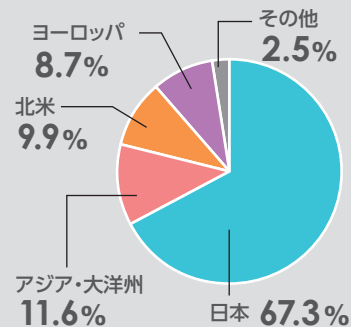
北米向けのAVF針の販売が減少しました。

セグメント利益 **93百万円**

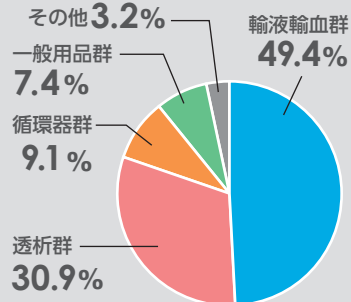


減収の影響により利益が減少しました。

地域別売上高構成比



システム別売上高構成比



輸液輸血群

輸液セット、経腸栄養システム製品、血液バッグ、成分献血用回路、シリンジ(注射筒)、注射針 他

透析群

血液透析装置、人工腎臓用血液回路、AVF針、プレフィルドシリンジ製剤、腹膜透析液 他

循環器群

膜型人工肺、ペースメーカー、人工心臓装置、人工心臓回路、血管造影用・治療用カテーテル 他

一般用品群

医療用手袋、不織布製品 他

ニードルレスアクセスポート「プラネクタ」付輸液セット

注射針のない注射筒での接続を可能にした「プラネクタ」を備えた輸液セットです。より安全・安心な医療環境の実現をサポートしています。



AVF針(血液透析用針)

血液透析を行う際に、シャント(動脈と静脈を接合した部位)から血液を体外へ取り出すための針です。



すい ぞう

膵臓がんの新たな手術法をサポートする専用機器

すい かん ふん ぞう

膵管吻合補助器「JMS インナーシュアーエース®」を開発！

膵臓を切除する手術では、直径数ミリの膵管と消化管を吻合*するため、高度な技術による処置が求められます。

当社では、産学官連携プロジェクトを活用して、膵管吻合をサポートする専用補助器「JMS インナーシュアーエース®」を製品化しました。

今回は、吻合手術の安全性や操作性の向上が期待される「JMS インナーシュアーエース®」の開発背景と特長をご紹介します。

※吻合：管状・袋状の臓器を互いに手術でつなぎ合わせること



■膵頭切除手術の難しさは、細い膵管を傷つけないように、かつ、確実に消化管と吻合することです。

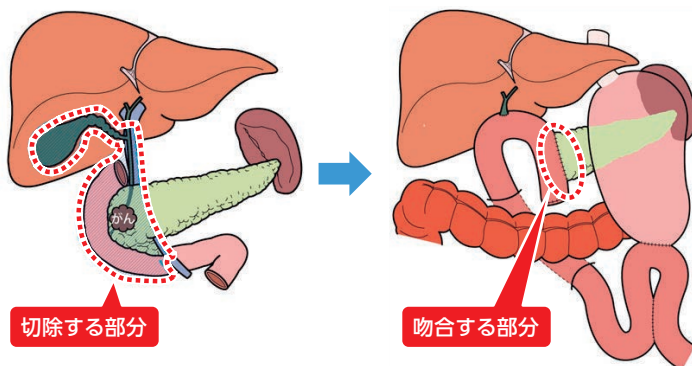
膵臓は消化液である膵液を分泌する臓器で、他の臓器と複雑につながっています。そのため、がんなどで手術をする場合、多い例では、まず膵臓の一部と周りの臓器を一緒に切除し、膵臓の機能が残された部分で膵液が通る膵管と消化管を吻合します(図①)。

膵管は直径約1~3mmと極めて細いため、手術用の針を通すに

は、とても高度な技術が必要です。しかも針を深く通せず、十分な縫い代が確保できないため(図②)、縫合糸に強いチカラがかかった場合、組織が切れ膵液が漏れ出し合併症を引き起こすリスクもあります。

膵管を傷つけることなく、消化管に確実に縫い合わせることが、膵管吻合の難しさになっています。

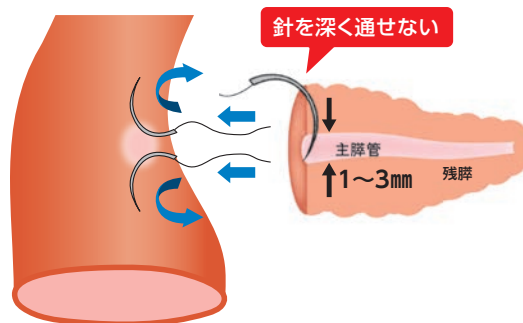
図① 膵臓手術(膵頭切除)の概念図



膵頭部にがんが見つかった場合、十二指腸、胆管、胆のうも一緒に切除する。

膵液を腸内に送るため、残った膵臓の一部と消化管(小腸)を吻合する。

図② 現行の膵管吻合の概念図



膵管が細く傷つきやすいため、針を深く通せず、十分な縫い代が確保できない。

出典(図①): 日本消化器外科学会ホームページ(http://www.jsogs.or.jp/modules/citizen/index.php?content_id=17#06)

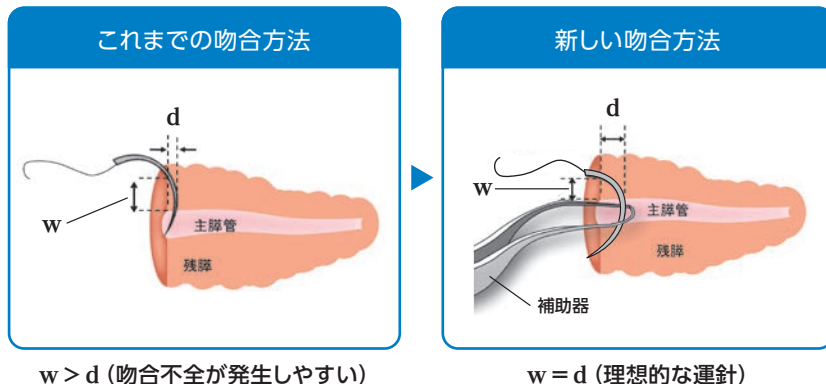
■ 臍管を傷つけず運針する手法を確立するため、大学と共同で製品開発に取り組みました。

「JMS インナーシュアーエース®」の製品開発は、当時、山口大学医学部で消化器外科を担当されていた上野富雄先生との、産学官連携プロジェクトとしてスタートしました。上野先生は、臍管吻合の新しい手法を学会に提唱された先生です (P.08コラム参照)。

その新手法は、先端がループ状の補助器を使って臍管を開き、補助器の間に通した縫合糸を引き出して、その糸を消化管に吻合する方法です (図③)。

この手法の優れた点は、臍管を傷つけるリスクを軽減しながら、針をより深く通すことが可能になり、また1回の運針で、2回分の縫合糸が通せることです。そこでこの手法の実用化を目指すために、専用の医療機器の開発が求められました。

図③ 新しい手法の概念図



→ 新手法は、簡単で強固な吻合が可能

■ 柔軟性・強度・操作性・視認性の4条件を、理想的なバランスで実現する吻合補助器を追求しました。

臍管吻合を安全かつ確実にサポートするための補助器には、「柔軟性」「強度」「操作性」「視認性」のすべてにおいて高いレベルを満たすことが条件となります。

特に「強度」と「柔軟性」は相反する性質です。それを両立させるため、強度のある素材と柔軟性のある素材を一体化するハイブリッド型を発想。性質の異なる素材を接続するため、素材特性や接続部の形状など、細かく条件を変えながら試作を繰り返しました。

そして、4つの条件を理想的なバランスで実現する臍管吻合補助器を完成させました。

臍管吻合補助器に要求される条件	
柔軟性	臍管や臍臓を傷つけず、挿入が可能なこと
強度	臍管を広げやすく、確実に縫合糸を引き出せること
操作性	扱いやすい重量と重心で、意図した操作が可能であること
視認性	手術中に視野や運針を妨げないこと

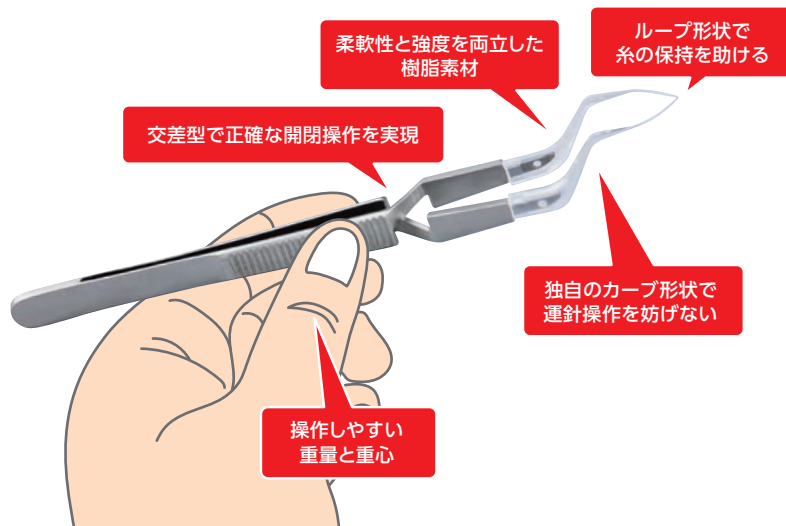
指先の微妙な感覚を先端まで正確に伝える 「JMS インナーシュアーエース®」の特長

医師の発案により、これまでより強固で確実な腭管吻合をサポートする医療機器として製品化されたのが「JMS インナーシュアーエース®」です。

その大きな特長は、医師が持つ手元側をステンレス素材にして強度と適度な重量を確保し、臓器に触れる挿入部は樹脂素材にすることで柔軟性を実現したことです。性質の異なる2種類の素材を緻密な接続設計により一体化することで、優れた操作性を実現しました。

そして、つまむと開く交差型のピンセットにすることで、指先の微妙な力加減で先端部の開閉を正確に調整できます。

さらに、先端部分は透過性のある樹脂で、白鳥の首のようにカーブさせた独自形状により、運針操作を妨げず、手術部位の視認性を確保しています。

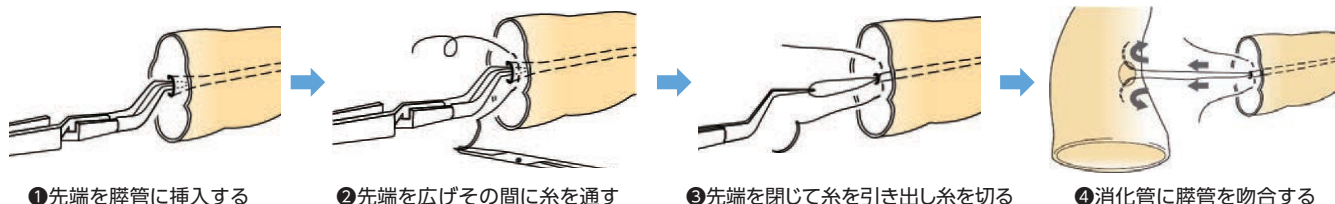


■腭管を広げ糸を通し引き出す操作を容易にすることで、より強固な吻合をサポートします。

「JMS インナーシュアーエース®」には、細く柔らかい樹脂による挿入の容易性や、開閉操作がしやすい交差型設計、視野を確保する独自のカーブ形状などの特長があります。

新しい吻合方法では「JMS インナーシュアーエース®」を図④のように使用します。

図④ 使用方法



JMS開発担当者の
おもい

細く柔軟で切れにくい樹脂開発や、樹脂と金属との一体接続など新たな技術開発で画期的な製品が生まれたことは、開発担当者としても大きな喜びです。

Doctor's Voice



多くの外科医に使ってもらえる仕様になるよう、医療現場での細かい手技にこだわりました。

川崎医科大学付属病院 消化器外科 部長

上野 富雄 氏

私は、山口大学大学院生のときから胆膵外科を専門としており、その頃から膵液漏れをなんとかできないかをずっと考えていました。あるとき、膵管の反対側にまで針をかけ、管を貫通させて糸を外に引き出すことができれば、最高の吻合ができることに気づきました。この方法で行うには糸を引き出す道具が必要で、産学官連携のプロジェクトとして、JMSとの共同開発がスタートしました。

共同開発では、多くの外科医に使ってもらえる仕様になるよう、医療現場での細かい手技を伝えることにこだわりました。そして、JMSにはものづくりの立場から、いろいろご提

案をいただきました。そのおかげで臨床使用できる、最高のものを開発していただいたと感じています。

「JMS インナーシュアアース®」の開発によって、手術の安全性や迅速性が補助されることから、我々も安心して手術を進めることができるようになりました。

もともとは膵頭切除手術での使用を考えていましたが、最近は膵尾側切除手術でも使っています。もちろん肝管吻合や尿道膀胱吻合にも使えると思います。そして将来的には、腹腔鏡手術などにも使えるような仕様にできれば良いと考えています。

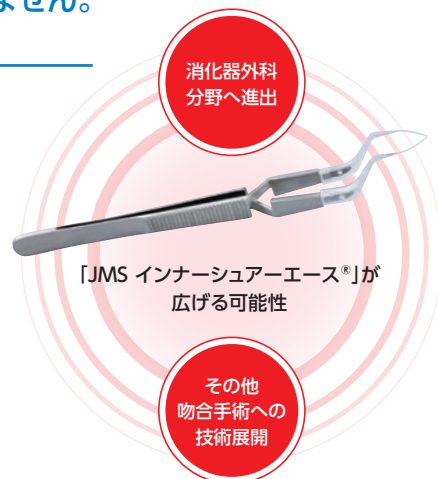
■「JMS インナーシュアアース®」の可能性は膵管吻合にとどまりません。 この技術を展開して新たなマーケットへの挑戦を続けます。

このたびの製品開発は、山口大学医学部考案による新たな吻合方法をきっかけにして、山口大学と当社と山口県の金属加工メーカーが協力し、山口県の「やまぐち産業戦略研究開発等補助金」の助成を得て完成させたプロジェクトです。

この製品は、当社の事業領域を新たに広げる、消化器外科分野への展開の足掛かりとなるイノベティブな製品といえます。

また、吻合手術は膵管だけではないため、この技術を応用してさまざまな医療分野・医療シーンへの展開が期待されています。

当社ではこれからも世の中の優れた技術や知識を持つ企業や大学等と協力しながら、これまで蓄積してきた医療機器開発のノウハウを活かして安全・安心で高品質の製品をお届けすることで、人と医療に貢献してまいります。



最適な戦略を迅速に展開する

ビジネスユニット型組織へ機構改革

医療機器業界を取り巻く経営環境は、ますます厳しさを増えています。当社は医療現場からの製品やサービスへの要求に、よりスピーディかつよりきめ細かく対応する体制を

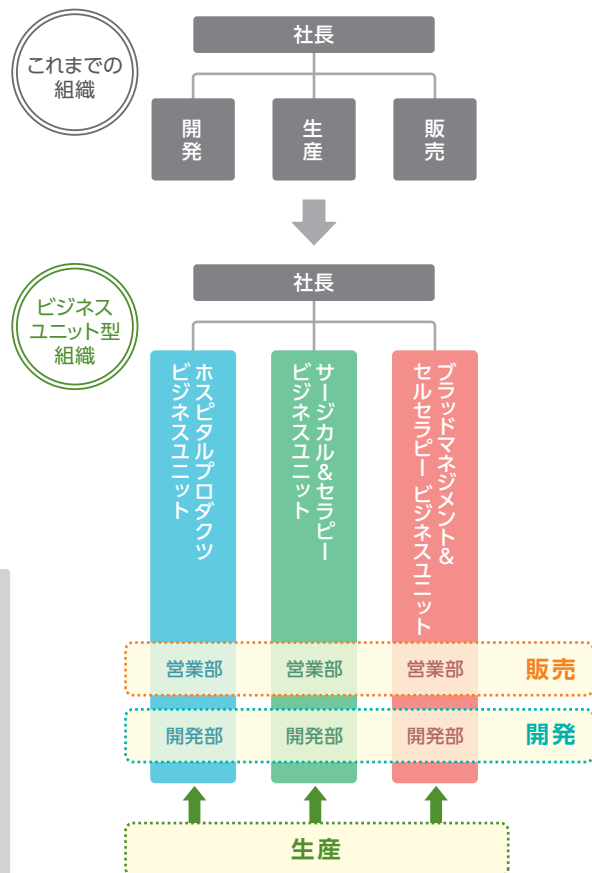
整えるために、2017年4月1日よりビジネスユニット型組織に機構改革しました。

●各医療分野が抱える専門的なニーズやシーズを捉え、いち早く開発～生産～販売できる組織

当社はこれまで「開発」「生産」「販売」という機能別組織体制のもと、それらが連携しながら製品を医療現場に提供してきました。医療機器が普及した現在、今後の市場環境の変化を見通したとき、これまで以上にお客さまの要求は専門的かつ高度になると考えられます。そのような時代に企業間競争を勝ち抜くには、開発から販売までをより迅速かつ的確に行える体制を整備しておくことが必要と判断しました。

そこでこれまでの機能別組織から、マーケットを基点としたビジネスユニット型組織へと機構を改革。医療現場が抱える様々な要求をいち早く察知した上で他社に先駆けて開発し、迅速に製品を提供する組織を目指します。

今後はこの新たな組織を機能させ、より高効率で柔軟性の高い組織体制へ発展させることで、事業の成長を追求してまいります。



【各ビジネスユニットの事業領域】

ホスピタル プロダクツ ビジネスユニット	サージカル& セラピー ビジネスユニット	ブラッド マネジメント& セルセラピー ビジネスユニット
● 輸液麻酔 ● 栄養療法 ● 一般用品	● 血液浄化 ● 循環器 ● 外科治療機器	● 血液事業 ● 細胞事業

中国・大連JMSに日本式透析医療の教育・研修を目的とした 「大連CDDS※テクニカルセンター」を開設

中国では、透析患者数の増加を背景に、高品質で高効率な日本式透析医療への関心とともに、透析医療を支える人材育成のニーズが高まっています。

2017年2月、今後さらに広がりが予想される中国の透析

※CDDS (Central Dialysis fluid Delivery System) : セントラル透析液供給システム

市場に対応するため、中国の子会社である大連ジェイ・エム・エス医療器具 有限公司の施設内に、日本式血液透析システムの人材教育と研修を目的とした「大連CDDSテクニカルセンター」を開設しました。

●「大連CDDSテクニカルセンター」により、さらなる中国市場への浸透を目指して

当社は、中国での先進的医療を担う基幹病院へ、日本式血液透析システムの導入を開始しています。このたび開設した「大連CDDSテクニカルセンター」では、病院の医師や臨床工学技士等の医療従事者及び代理店のエンジニアを対象に、透析装置の操作及びメンテナンス技術等の教育・研修を行う機能を備えています。

またテクニカルセンターの装置や設備を使って、中国国内の医療関係者等に



開式に出席された来賓の皆さまと

日本の透析医療の高度な技術とサービスを実践的に紹介し、中国市場へさらなる浸透をはかります。

テクニカルセンターを積極的に活用することで、中国での透析事業の展開を加速させてまいります。



テクニカルセンターの内部

～次世代の科学技術を担う子どもたちに向けて～ 小学校への「理科 出張授業」で社会貢献！

当社は、科学や理科好きの子どもに育ててほしいと願い、一般社団法人広島県発明協会と協力して、小学校への「理科 出張授業」を続けています。2017年1月には、広島市立口田小学校を訪問し、6年生を対象に当社の人工臓器を使った授業を行いました。

授業では血液に見立てたコーヒー牛乳を人工腎臓（ダイアライザー）でろ過する実験を実施。子どもたちは医療機器の働きに驚き、興味を持って観察していました。

これからもこうした取り組みを通して、子どもたちに新しい知識や考える機会を与えることで、社会に貢献してまいります。



出張授業の様子

財務諸表《連結》

連結貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	前連結 会計年度 2016年3月31日現在	当連結 会計年度 2017年3月31日現在	科 目	前連結 会計年度 2016年3月31日現在	当連結 会計年度 2017年3月31日現在
《資産の部》			《負債の部》		
流動資産.....①	35,205	36,279	流動負債	21,744	20,784
現金及び預金	5,927	6,270	固定負債.....②	12,522	13,836
受取手形及び売掛金	15,714	15,357	負債合計	34,266	34,620
たな卸資産	12,449	13,032			
その他	1,114	1,619	《純資産の部》		
固定資産	29,968	29,402	株主資本	30,111	30,803
有形固定資産	25,159	23,942	その他の包括利益累計額	678	127
無形固定資産	508	448	非支配株主持分	117	130
投資その他の資産	4,299	5,011	純資産合計	30,907	31,061
資産合計	65,174	65,681	負債純資産合計	65,174	65,681

連結株主資本等変動計算書

当連結会計年度(2016年4月1日～2017年3月31日)

(単位:百万円)

	株主資本					その他の包括利益累計額			非支配 株主持分	純資産 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	その他の 包括利益 累計額合計		
当期首残高	7,411	10,362	12,618	△280	30,111	370	308	678	117	30,907
当期変動額										
剰余金の配当			△487		△487					△487
親会社株主に帰属する 当期純利益			1,182		1,182					1,182
自己株式の取得				△2	△2					△2
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)						68	△620	△551	12	△539
当期変動額合計	—	—	694	△2	692	68	△620	△551	12	153
当期末残高	7,411	10,362	13,313	△282	30,803	439	△312	127	130	31,061

■ 連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	前連結 会計年度 2015年4月1日～ 2016年3月31日	当連結 会計年度 2016年4月1日～ 2017年3月31日
売上高	57,636	55,574
売上原価	42,769	41,139
売上総利益	14,866	14,435
販売費及び一般管理費	13,444	13,329
営業利益	1,422	1,106
営業外収益	572	530
営業外費用	741	185
経常利益	1,252	1,451
特別利益	75	811
特別損失	121	1,163
税金等調整前当期純利益	1,205	1,100
法人税等	434	△91
当期純利益	771	1,191
非支配株主に帰属する当期純利益	16	9
親会社株主に帰属する当期純利益	754	1,182

(注) 金額につきましては、百万円未満を切り捨てて記載しております。

■ 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	前連結 会計年度 2015年4月1日～ 2016年3月31日	当連結 会計年度 2016年4月1日～ 2017年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,526	4,675
投資活動によるキャッシュ・フロー	△6,254	△4,809
財務活動によるキャッシュ・フロー	3,446	644
現金及び現金同等物に係る換算差額	△445	△157
現金及び現金同等物の増減額(減少:△)	1,272	351
現金及び現金同等物の期首残高	4,709	5,982
現金及び現金同等物の期末残高	5,982	6,333

>>> POINT 解説

- ① 流動資産**〔前連結会計年度末に比べ10億73百万円増加〕
・繰延税金資産が増加しました。
- ② 固定負債**〔前連結会計年度末に比べ13億13百万円増加〕
・長期借入金が増加しました。
- ③ 売上高**〔前連結会計年度に比べ20億61百万円減少〕
・地域別では日本と欧州の販売、システム別では輸液輸血群の販売が伸びたものの、円高により海外売上上の円貨換算額が減少しました。
- ④ 営業利益**〔前連結会計年度に比べ3億15百万円減少〕
・大型投資にかかる償却負担や開発費の増加により減益となりました。
- ⑤ 経常利益**〔前連結会計年度に比べ1億99百万円増加〕
・為替差損の減少等により増益となりました。
- ⑥ 財務活動によるキャッシュ・フロー**
〔前連結会計年度に比べ28億2百万円減少〕
・借入金の収支差額によるものです。

会社概要

●当社の概要

(2017年3月31日現在)

設 立	1965年(昭和40年)6月12日
資 本 金	7,411,014,445円
上場金融商品 取 引 所	東京証券取引所市場第一部 (証券コード:7702)
主要な事業内容	医療機器、医薬品の製造・販売 及び輸出並びに輸入
従 業 員 数	1,587人 (グループ総数 6,178人)

●役員

(2017年6月22日現在)

代表取締役社長	奥 窪 宏 章	取 締 役	井 口 明 彦
常 務 取 締 役	栗 根 康 浩	取 締 役	池 村 和 朗
取 締 役	国 富 純	監 査 役(常 勤)	兼 口 昇 万
取 締 役	森 川 重 美	監 査 役	早 稲 田 幸 雄
取 締 役	佐 藤 雅 文	監 査 役	水 戸 晃
取 締 役	桂 龍 司		
取 締 役	柳 田 正 吾		

※井口明彦氏、池村和朗氏は、社外取締役であります。

※早稲田幸雄氏、水戸晃氏は、社外監査役であります。

JMS グローバルネットワーク

グローバル展開を推進するために、製造拠点・販売拠点を各地域に設置し、事業活動を行っています。

海外ネットワーク

子会社

- ① 株式会社 韓国メディカル・サプライ《製造・販売》
- ② ジェイ・エム・エス・シンガポールPTE. LTD.《製造・販売》
- ③ 大連ジェイ・エム・エス医療器具 有限公司《製造・販売》
- ④ ジェイ・エム・エス・ノース・アメリカ・コーポレーション《販売》
- ⑤ バイオニック・メディツインテックGmbH《販売》
- ⑥ PT. ジェイ・エム・エス・バタム《製造》
- ⑦ ジェイ・エム・エス・ヘルスケア・フィリピン, INC.《製造》



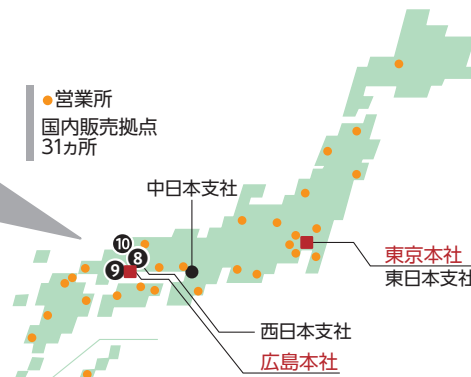
国内ネットワーク

子会社

- ⑧ ジェイ・エム・エス・サービス 株式会社
《医療機器の修理等》
- ⑨ 株式会社 大野《業務請負業》

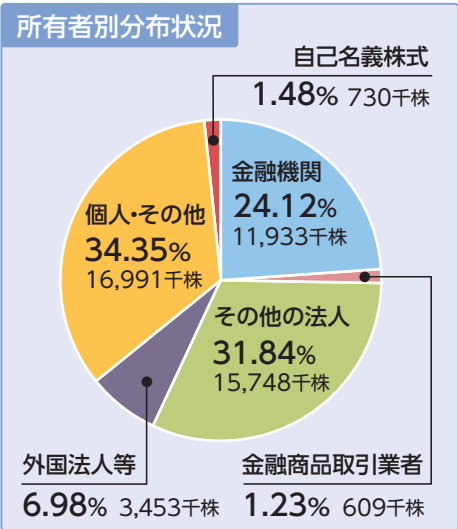
関連会社

- ⑩ 株式会社 ジェイ・オー・ファーマ《医薬品の製造・販売》



株式概要 (2017年3月31日現在)

- ◇発行可能株式総数 …… 100,000,000株
- ◇発行済株式総数 …… 49,466,932株
(自己株式730,061株を含む)
- ◇株主数 …… 4,713名

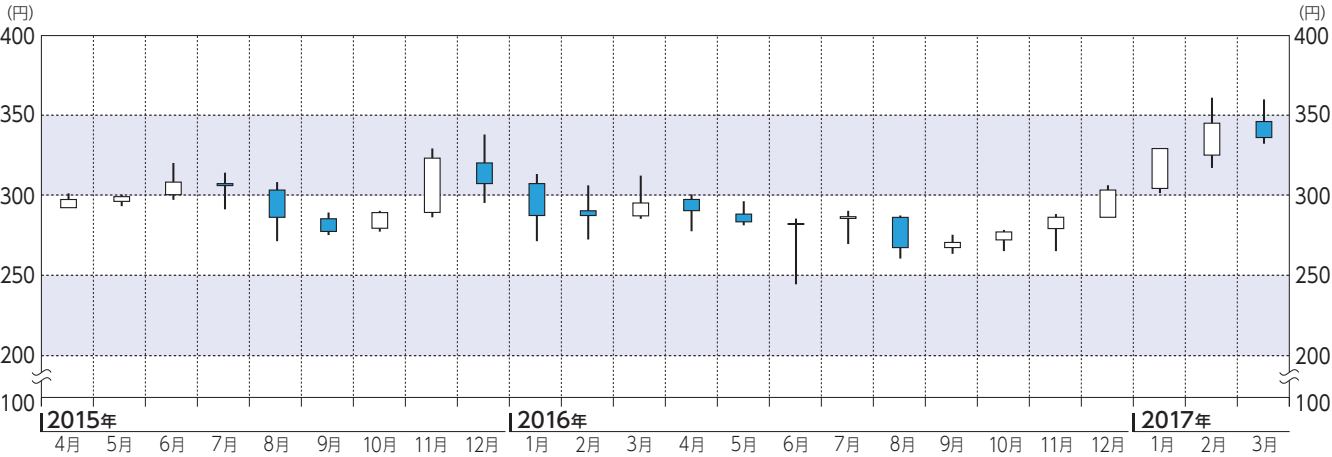


◇大株主の状況 (上位10名)

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
株式会社カネカ	4,947	10.15
一般財団法人土谷記念医学振興基金	3,800	7.79
土谷佐枝子	2,015	4.13
社会福祉法人千寿会	2,000	4.10
株式会社広島銀行	1,790	3.67
第一生命保険株式会社	1,722	3.53
大下産業株式会社	1,142	2.34
JMS共栄会	1,112	2.28
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	1,001	2.05
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	891	1.82

(注) 持株比率は、自己株式 (730,061株) を控除して計算しております。

◇株価推移



株式併合および単元株式数の変更についてのご案内

当社は2017年10月1日をもって、

1. 当社の普通株式2株を1株といたします。(株式併合)
2. 単元株式数を1,000株から100株に変更いたします。
(単元株式数の変更)

● 株式併合による影響

今回の株式併合により株主様の所有株式数は2分の1となりますが、株式併合の前後で会社の資産や資本の状況は変わりませんので、株式1株あたりの資産価値は2倍となり、株式市況の変動等他の要因を別にすれば、株式併合によって株主様所有の当社株式の資産価値に影響が生じることはありません。

● 所有株式数について

株主様の株式併合後の所有株式数は、2017年9月30日の最終の株主名簿に記載された所有株式数に2分の1を乗じた株式数(1株に満たない端数がある場合はこれを切り捨て)となります。

● 配当金への影響

今回の株式併合により株主様の所有株式数は2分の1となりますが、株式併合の効力発生後にあっては、併合割合を勘案して1株当たりの配当金を設定させていただくこととなりますので、業績変動等他の要因を別にすれば、株式併合によって株主様の受取配当金の総額に影響が生じることはありません。但し、株式併合により生じた端数株式につきましては、当該端数株式に係る配当は生じません。

● 1株未満の端数が生じる場合の処理

株式併合の結果、1株に満たない端数が生じた場合には、会社法の定めに基づき、一括して処分し、その処分代金を端数が生じた株主様に対して、端数の割合に応じて分配いたします。

● スケジュール

2017年9月26日 1,000株単位での売買最終日

2017年9月27日 100株単位での売買開始日

2017年10月1日 株式併合および単元株式数の変更の効力発生日

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日までの1年

基準日 定時株主総会 3月31日
期末配当 3月31日
中間配当 9月30日
その他必要があるときは、あらかじめ公告いたします。

定時株主総会 毎年6月

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関

同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社
大阪証券代行部
〒541-8502
大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
Tel.0120-094-777(通話料無料)

上場証券取引所 東京証券取引所市場第一部

公告の方法 電子公告とする。
(<http://www.jms.cc/ir/denshi.html>)
ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。

(ご注意)

1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、特別口座の口座管理機関である三菱UFJ信託銀行にお問合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

株式会社 JMS

広島本社

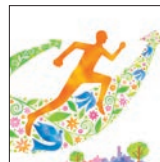
〒730-8652 広島市中区加古町12番17号
TEL 082-243-5844 FAX 082-243-5997

東京本社

〒140-0013 東京都品川区南大井一丁目13番5号 新南大井ビル
TEL 03-6404-0600 FAX 03-6404-0610

【表紙デザイン】

テーマ「力強く進んでいく。」



花、葉、鳥で構成された上昇していく矢印を力強く駆け上っていく人物。
JMSが時代や環境の変化に合わせた新体制に変わり、今後さらにアグレッシブに、スピード感を持って事業を進めていくという姿勢を表現。

UD FONT
見やすいユニバーサルフォントを採用しています。